

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月3日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02035

研究課題名(和文)「いのち」とジェンダーの視点からみた性と生殖の近世・近代

研究課題名(英文) The Sex and Reproduction through Early-modern to Modern from the Viewpoint of Gender and Lives

研究代表者

沢山 美果子 (MIKAKO, SAWAYAMA)

岡山大学・社会文化科学研究科・客員研究員

研究者番号：10154155

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、性と生殖の現場として「家」と「遊所」を取り上げ、性と生殖の近世から近代への変化を明らかにすることにある。そのため、近世の妊娠・出産管理制度をめぐる史料群や日常の営みに関する史料群、「家」の当主である男たちの日記、性をめぐる禁忌、人々がいのちを繋ぐためにおこなった乳のやり取りなどを手がかりに、性と生殖の近世から近代への変化を探った。その結果、いのちを繋ぐ営みの中核に位置する性と生殖の近世から近代への変化を明らかにすることは、「家」の維持・存続への人々の願望や「家」と「遊所」の関係の歴史的变化を明らかにするためにも有効であることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、人々のいのちをつなぐ営みである性と生殖の二つの現場として「家」と「遊所」を取り上げ、そこに生きた女と男の経験の側から、性と生殖の近世から近代への展開を明らかにしようとした点にある。本研究では、性格の異なる史料群を重ね合わせ、性と生殖の現場に即して、女と男が抱えた性と生殖をめぐる矛盾や葛藤を社会的諸関係の中で読み解くことを意図した。それは、「生きること」の問い方を模索する試みと同時に史料読解の方法の開拓という点でも、社会的意義を有する。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to identify "ie" and "prostitute quarters" as sexual and reproductive sites, and to clarify a historical changes about the sexuality and reproduction through early-modern to modern Japan. To explore the historical changes of sex and reproduction from early modern to modern, I used historical documents related to the childbirth administration and the daily life, the diaries of men who are the head of "ie", connecting with the people's contraindications on sex, and how people exchange their milk to bring the babies for the life-linking.

As a result, this study revealed that to focus on the sexuality and reproduction, both of which are the core of life-linking, is effective to clarify the desires of people for a sustainment on their family line or the system of "ie". This process is also effective to clarify the historical changes of the relationship between "ie" and "prostitute quarters" from early-modern to modern.

研究分野：ジェンダー

キーワード：いのち ジェンダー 性 生殖 近代

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 2000年以降、塚本学『生きることの近世史』(2001年)、倉地克直『徳川社会のゆらぎ』(2008年)、『生きることの歴史学』(2015年)など、「いのち」と「生きること」の視座から近世史像の再構築を試みる研究が登場してきた。これらの研究では、人々のいのちを守る誓として「家」をとらえるとともに、性と生殖をめぐる問題を「家」の維持・存続と関わらせ、一人ひとりのいのちの視座から描き出す試みがなされつつある。

(2) 本研究は、これらの研究で提起された「いのち」の視座に学びつつ、さらにジェンダーの視点から性と生殖の問題にせまるために、産む性とされた「家」の女性だけでなく性と生殖のもう一つの間である「遊所」の「産む」ことを否定された遊女にも焦点をあて、近年のジェンダー視点からの遊所研究にも学び、「家」と「遊所」の関係性にも留意し、性と生殖の近世から近代への重層的展開の解明を意図した。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、「いのち」とジェンダーの視点から、性と生殖の現場として「家」だけでなく「遊所」の性と生殖を取り上げ、今まで「家」の女に焦点をあてて行ってきた近世社会の性と生殖をめぐる研究をさらに発展させるとともに、性と生殖の近世から近代への重層的展開を明らかにすることにある。

(2) そのため本研究では、性と生殖管理、淫売女取締りに関する史料と当事者の経験に迫り得る日記、性と生殖をめぐる禁忌など性質の異なる史料群を重ね合わせ、それらの史料群を社会的諸関係のなかで読み解くことで、性と生殖をめぐる女と男が抱えた矛盾や葛藤の近世から近代への展開を探ることで、「いのち」とジェンダーの歴史学」を切り拓くことを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 本研究の課題を歴史学全体の動向のなかで明らかにするために、まず、いのちの視点から近世史像の再構築を試みる近世史研究や近世の売春社会をめぐる遊郭社会論などの先行研究の検討を行う。それと併行して、性と生殖の現場に即して考察するために、フィールドとする松江藩、東北の一関藩などの性と生殖をめぐる史料の発掘と収集、江戸の隠売女取締りに関する史料の収集を行い、マクロとミクロの両方の視点から分析を行う。

(2) 「いのち」とジェンダーの視座から、歴史のなかに生きた一人ひとりにそくして性と生殖に関する分析を進めるために、女の身体と子どもの「いのち」の結節点に位置する「乳」に焦点をあて、『柏崎日記』『桑名日記』などの日記分析を通して、人々が具体的にどのような関係性のなかで「いのち」を繋いできたのかを探る。

(3) 性と生殖の二つの現場である、「家」と「遊所」の関係性に留意しつつ、近世から近代への展開を探るための史料読解の方法についても合わせて追究する。

4. 研究成果

(1) 近世の人々の性と生殖をめぐる具体相と、その歴史的特質はどのようなものだったのか、そこに生きた女と男の側から、その身体の経験に即し、女と男の関係をはじめとする社会的関係のなかで追究することで、近世の性と生殖は、何よりも人々が生きる場である「家」の維持・存続と結びついたものとしてあったことが明らかとなった。

(2) 近世の性と生殖は、「家」の維持・存続と結びついたものとしてあったが、「家」の中の女と男の関係に閉ざされたものではなく、いのちをつなぐために、人々は、出産の危機を回避するための「伽」や、貰い乳などの乳のやり取りなど、様々なネットワークを形成していたこと、しかし近代になると、こうしたネットワークは切断され、母親の育児責任が強調されていくという近世から近代への見取り図を描くことができた。

(3) 一方、性と生殖は「家」にとっての危機をもたらすものでもあった。というのも出産は、時に母と子の死を伴い、多すぎる子どもは「家」の維持・存続を危機に陥れたからである。そのため、人々は避妊も含めた様々な出生コントロールや、出生間隔をあけるための長期授乳など様々な方法を試みていたことも浮かびあがってきた。

(4) 近世後期に、人々の「家」の維持・存続の意識と結びつきながら広く流布していった性と生殖をめぐる禁忌も、こうした文脈に位置づけて分析することで、人々の出生コントロールの意識と結び付いていることが明らかとなり、今まで迷信として歴史の史料とみなされていなかった性をめぐる禁忌などの史料群の分析が性と生殖の問題を明らかにするうえで必要なことも見えてきた。

(5) 性と生殖の現場として「家」と「遊所」を関連付けて分析することで、近世後期の淫売女取締は、「家」に属しつつ性を売る女たちは、生殖の場としての「家」と快楽としての性の場である「遊所」という近世の性の装置と身分制を揺るがす存在であったことによるものであったことも明らかとなった。しかし、近世の「売春社会」から近代の「大衆売春社会」への展開を、近世の「家」から近代の「近代家族」への展開と結びつけて歴史的に解明することは、今後の課題として残されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

沢山 美果子、「いのち」とジェンダーの視点からみた女・男・子ども 近世から近代へ、
家族関係学、査読無、No.37、2018、pp.5-13

沢山 美果子、江戸の子どもたち いのちを繋ぐ、Japanese Journal of Child and Adolescent
Psychiatry、査読無、Vol.58、No.4、2017、pp.502-506

沢山 美果子、町絵図と日記に見る女の姿 松江城下の場合、歴史地理教育、査読無、No.808、
2017、pp.12-17

〔学会発表〕(計4件)

沢山 美果子、江戸の「乳」と子どもの「いのち」、乳房文化研究会(招待講演)、2018

沢山 美果子、「いのち」とジェンダーの視点からみた女・男・子ども—近世から近代へ

日本家政学会家族関係学部会 第37回家族関係学セミナー(招待講演)、2017

沢山 美果子、江戸の子どもたち いのちを繋ぐ、第57回日本児童青年医学会総会(招待講
演)、2016

沢山 美果子、「近世日本の妊娠・出産管理」、日本人口学会、2016

〔図書〕(計3件)

沢山 美果子 他、ナカニシヤ出版、ケアが生まれる場、2019、316

沢山 美果子 他、第4次 現代歴史学の成果と課題 第1巻 新自由主義時代の歴史学、
2017、303

沢山 美果子、江戸の乳と子ども—いのちをつなぐ、吉川弘文館、2017、220

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号(8桁):

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。